

「長野オリンピック・ パラリンピックから20年」

報告書

(2017年12月26日～2018年1月19日調査)

I	調査の設計	1
II	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

1998年2月7日～22日の16日間に72の国・地域の選手が参加した長野オリンピック(第18回オリンピック冬季競技大会)、3月5日～14日の10日間に32カ国の選手が参加した長野パラリンピック(第7回冬季パラリンピック)から20年を迎える。

20世紀最後の冬季オリンピック・パラリンピックから、長野県民が継承したものは何か。

長野オリンピックで掲げた①子どもたちの参加促進 ②美しく豊かな自然との共存 ③平和と友好の祭典の実現、この3つの目標と精神は、今どう生かされているのか。

オリンピック・パラリンピック開催20周年を機に、県民の意識を点検し次世代にその遺産を生かす道を探る。

◆ 調査の設計

▽調査対象	長野県内に住む18～79歳以下の男女1000人
▽抽出方法	層化三段無作為抽出法。対象の各市町村の選挙人名簿から無作為抽出
▽調査方法	郵送(一部ファクス・インターネット回収)
▽調査時期	2017年12月26日調査票発送～2018年1月19日回収締め切り
▽調査地点	19市9町9村の計37市町村
▽有効回収数(率)	621人(回収率62.1%=男性263人 女性358人)
▽回収内訳	郵送 530(85.3%) ファクス 46(7.4%) インターネット 45(7.2%)

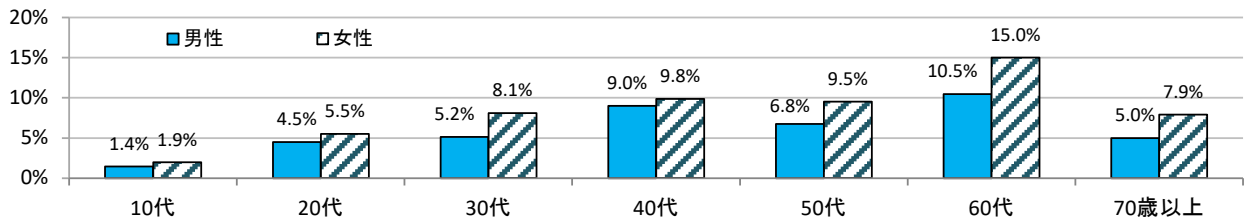
<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

本文中の数字は原則小数点以下第1位を四捨五入して表記した。詳細数字や合算で必要な場合は、小数点以下第1位まで示した。

回収サンプルの内訳

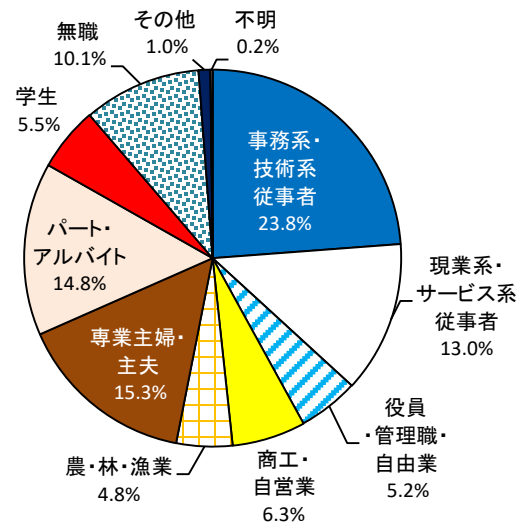
【性別×年代】

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	621	21	62	82	117	101	158	80
	100.0	3.4%	10.0%	13.2%	18.8%	16.3%	25.4%	12.9%
男性	263	9	28	32	56	42	65	31
	42.4%	1.4%	4.5%	5.2%	9.0%	6.8%	10.5%	5.0%
女性	358	12	34	50	61	59	93	49
	57.6%	1.9%	5.5%	8.1%	9.8%	9.5%	15.0%	7.9%



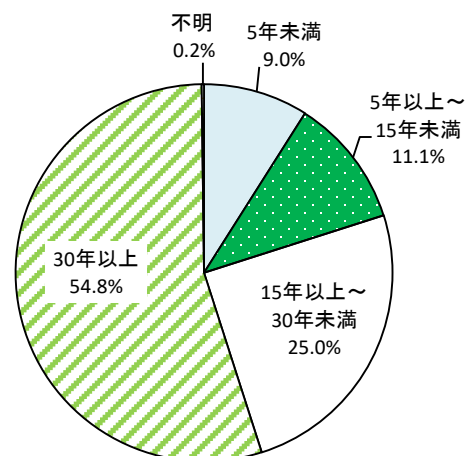
【職業】

事務系・技術系従事者	148	23.8%
現業系・サービス系従事者	81	13.0%
役員・管理職・自由業	32	5.2%
商工・自営業	39	6.3%
農・林・漁業	30	4.8%
専業主婦・主夫	95	15.3%
パート・アルバイト	92	14.8%
学生	34	5.5%
無職	63	10.1%
その他	6	1.0%
不明	1	0.2%



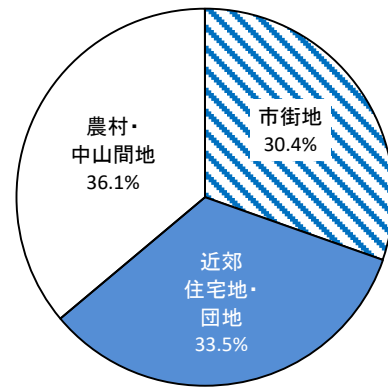
【居住年数】

5年未満	56	9.0%
5年以上～15年未満	69	11.1%
15年以上～30年未満	155	25.0%
30年以上	340	54.8%
不明	1	0.2%



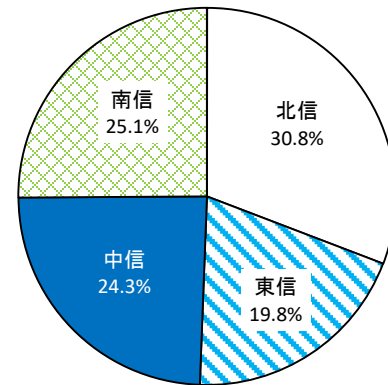
【地域性】

市街地	189	30.4%
近郊住宅地・団地	208	33.5%
農村・中山間地	224	36.1%



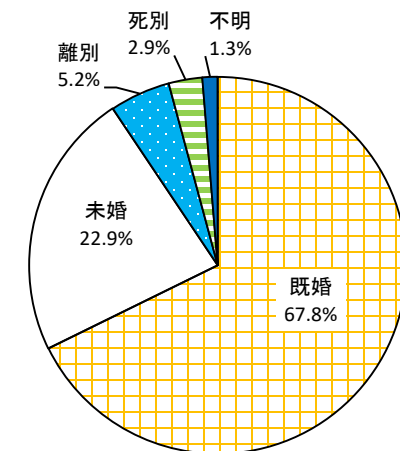
【地域】

北信	191	30.8%
東信	123	19.8%
中信	151	24.3%
南信	156	25.1%



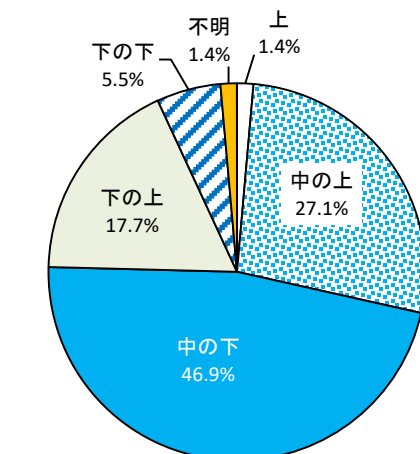
【結婚】

既婚	421	67.8%
未婚	142	22.9%
離別	32	5.2%
死別	18	2.9%
不明	8	1.3%



【暮らし向き】

上	9	1.4%
中の上	168	27.1%
中の下	291	46.9%
下の上	110	17.7%
下の下	34	5.5%
不明	9	1.4%



II 調査の概要

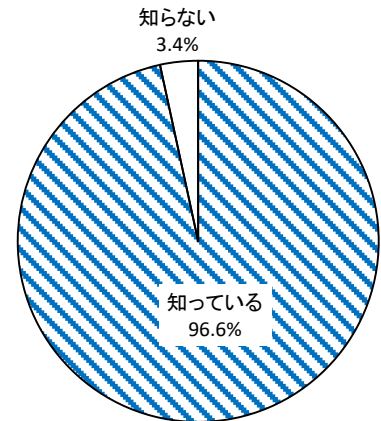
1998年の長野オリンピック開催

(問1)

◆「知っている」97%

最初に20年前の長野オリンピックを、今どの程度知っているか尋ねた。

1998年2月に、長野市を主会場に「第18回オリンピック冬季競技大会」が開催されたことを「知っている」は97%、40代と60代の100%をはじめ、30代以上はほぼ全員に近い。ただ「知らない」が、当時まだ生まれていなかった10代(18歳と19歳)は19%、小さかった20代も13%と他の年代より多く、オリンピックという世界の祭典を共有できた30代以上の違いが表れている。



特に印象的なシーン

(問2)

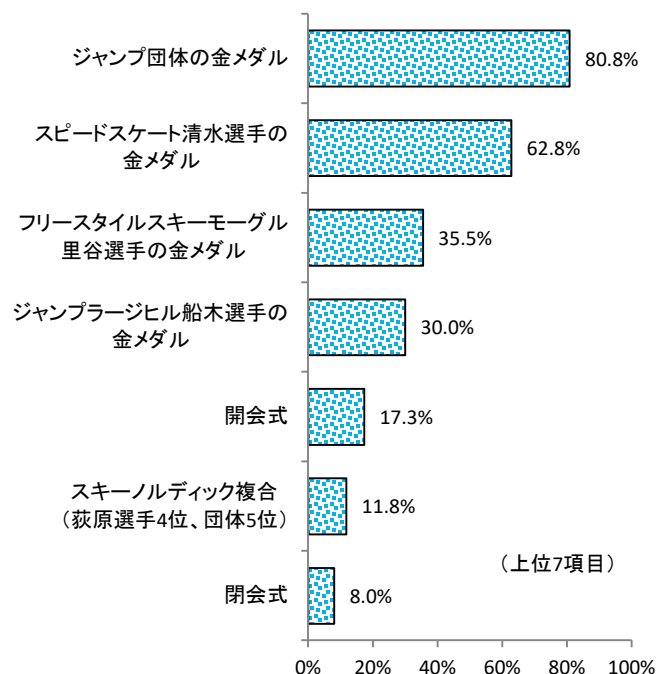
◆ジャンプ団体、清水選手、里谷選手の金メダルがトップ3

長野オリンピック開催を「知っている」と答えた人に、特に印象的なシーン(3つ以内)を聞いた。選択肢としては5つの金メダルを取った選手(団体)と実施した競技、開閉会式、表彰式等を挙げた。

「ジャンプ団体の金メダル」81%、「スピードスケート清水選手の金メダル」63%、「フリースタイルスキーモーグル里谷選手の金メダル」36%がトップ3、次いで「ジャンプラージヒル船木選手の金メダル」30%、「開会式」17%、「スキージャンプ複合(荻原選手4位、団体5位)」12%の順だった。

ジャンプ団体と清水選手は男女や年代など各属性を通じて1、2位、特に中高年の記憶に強く残っているようだ。

その他回答では岡崎選手の銅メダルを挙げた人がいた。



◆「長野新幹線が1997年に開通」3人に2人

長野オリンピックを開催したことによるレガシー（遺産）は何だと思いか—ハード、ソフト両面の選択肢を挙げて尋ねた（あてはまるもの全て）。

「長野新幹線（高崎—長野）が1997年に開通した（*）」67%、「競技施設ができ、スポーツやイベントに活用している」62%、「県内の高速交通網が整備された（五輪道路を含む）」53%とハード面が上位に入り、4番目の「NAGANOの知名度が上がった」52%までが5割を超えた。

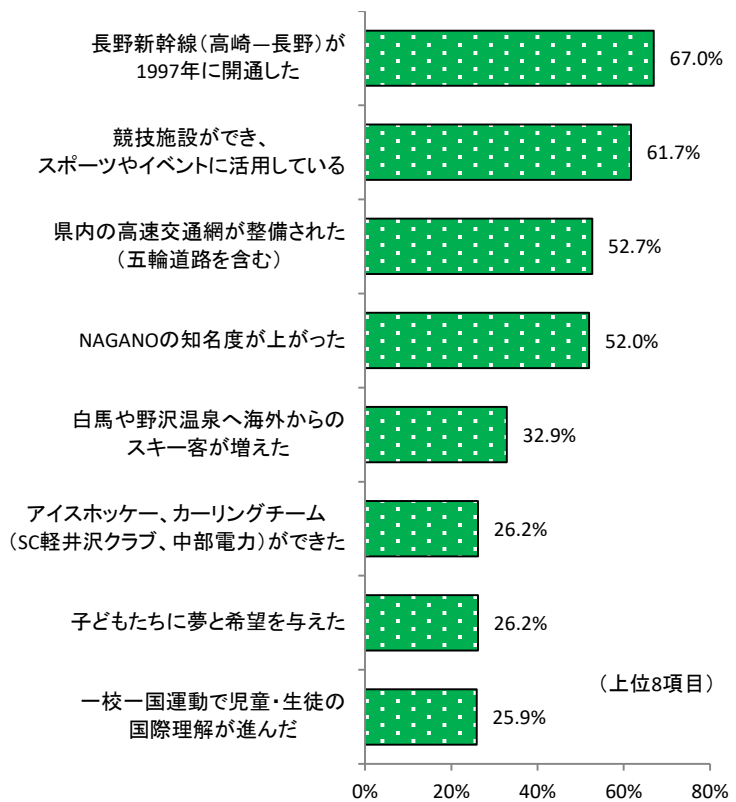
長野新幹線開通は北信・東信が80%超に対し中信57%、南信49%と地域による落差が大きい。

5番目以下は「白馬や野沢温泉へ海外からのスキー客が増えた」33%、

「アイスホッケー、カーリングチーム（SC軽井沢クラブ、中部電力）ができた」が26%。長野オリンピックは「子どもたちの参加」を目標の一つに掲げたが、「子どもたちに夢と希望を与えた」「一校一国運動で児童・生徒の国際理解が進んだ」も26%だった。

どの項目も若年層より高齢層が高率になる傾向があり、オリンピックの印象や記憶の強さを反映しているようだ。

ただ中南信の人からは「大した恩恵もなく関係なかった」「南信は活性化していないし、南北格差を実感」など厳しい指摘もあった。また会計帳簿紛失について疑問の意見も寄せられた（自由回答、38～47ページ参照）。



（*）「その後、北陸新幹線（長野経由）として2015年に金沢まで延伸」と選択肢を補っている。

競技施設は有効活用されているか

(問4)

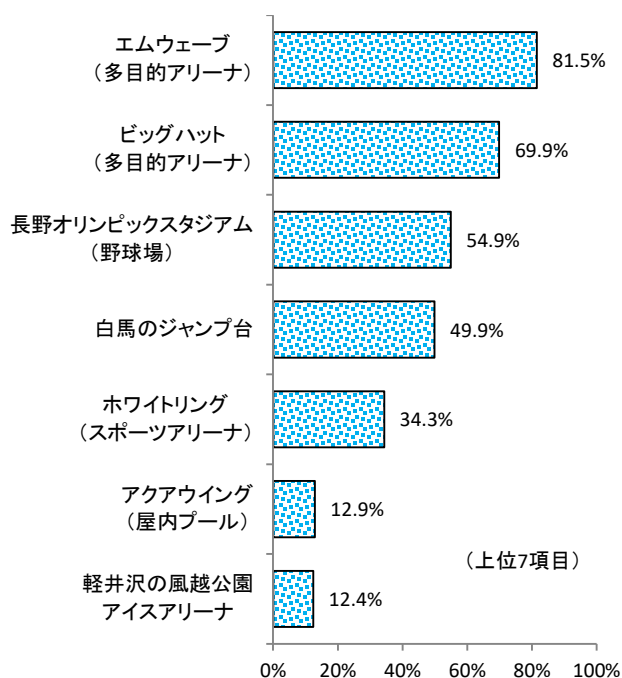
◆「エムウェーブ」「ビッグハット」は活用が多数

長野オリンピックから20年経った現在、競技施設が有効活用されていると思うか聞いた(あてはまるもの全て)。

「エムウェーブ(多目的アリーナ)」82%、「ビッグハット(多目的アリーナ)」70%、「長野オリンピックスタジアム(野球場)」55%、「白馬のジャンプ台」50%、「ホワイトリング(スポーツアリーナ)」34%が上位5施設。それ以外はあまり活用状況が知られていない。

アイスホッケー会場から変わった「アクアウイング(屋内プール)」13%、新たにできた「軽井沢の風越公園アイスアリーナ」は12%だった。

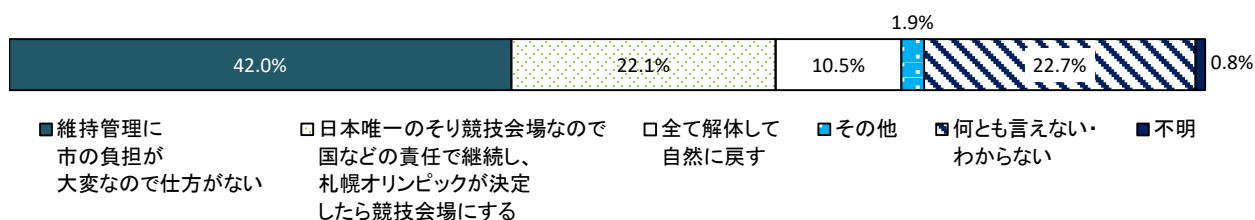
また休止が決まった「長野市のスパイラル」は有効活用されていると思う人が2%に過ぎない。



長野市のスパイラル休止

(問5)

◆「仕方がない」42%



韓国・平昌オリンピックの後、冬季の製氷をやめ競技施設としては休止となる長野市のスパイラルについては「維持管理に市の負担が大変なので仕方がない」42%、「日本唯一のそり競技会場なので国などの責任で継続し、札幌オリンピックが決定したら競技会場にする」22%、「全て解体して自然に戻す」11%、「何とも言えない・わからない」23%。「仕方がない」が多いものの、意見は割れている。

「何とも言えない・わからない」は30代までの若年層が3割を超え、理解が深まっていないことを伺わせる。

一校一國運動

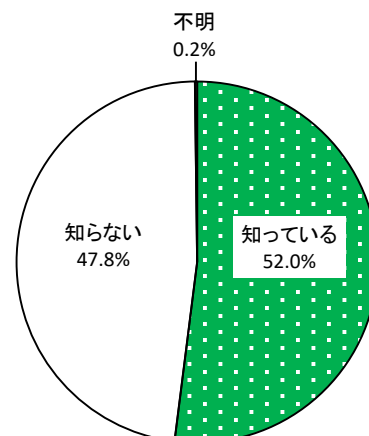
(問6)

◆「知っている」52%、「知らない」48%

長野オリンピックから始まった一校一國運動（長野市内76の小中学校、盲・ろう・養護学校が特定の国・地域を応援、国際交流）の知識を聞いたところ、「知っている」52%と「知らない」48%が拮抗した。

40代までは「知らない」が過半数、とりわけ10代86%、20代が77%に上る。一方50代以上は「知っている」が過半数で年代による差異が目立つ。

また、北信と東信は「知っている」が6割超に対し、中南信は「知らない」が6割程度と地域による開きも大きい。



文化・芸術祭プログラム

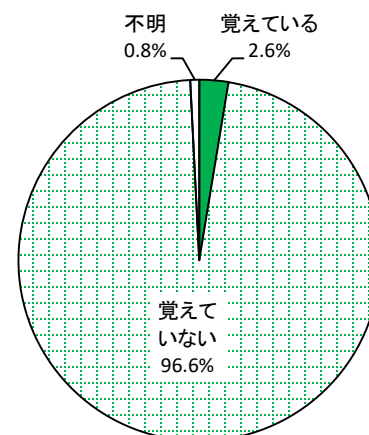
(問7)

◆「覚えていない」が大多数

長野オリンピックに合わせ、多数の文化・芸術祭参加プログラムも行われた。そのプログラムを「覚えている」3%、「覚えていない」97%と大多数は記憶していない。

覚えている人も、具体的に書いてくれたのは5件だけ(37ページ)だった。

文化プログラムはオリンピック憲章で実施が義務付けられているが、記憶に残るのは難しいことを示している。



長野オリンピックの評価

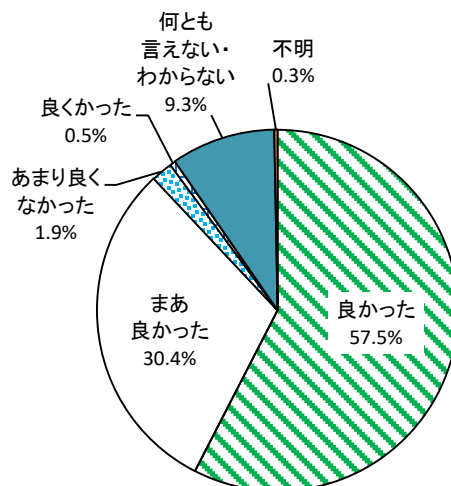
(問 8)

◆「良かった」が全体で 88%

長野オリンピックを開催して「良かった」58%、「まあ良かった」30%を合わせ肯定的な評価が88%に上る。

「良かった」全体は属性全てで80%以上、これは東北中南信の全地域とも共通だ。

「良くなかった」は全体で2%、「何とも言えない・わからない」が9%。ただ問1でオリンピック開催を「知らない」が多めだった10代と20代は、評価の判断も「何とも言えない・わからない」が2割近くで、他の年代より多い。



(注) 信濃毎日新聞社が、2008年1月に長野五輪・パラリンピック開催から10年に合わせて実施した県民意識調査(20歳以上の1000人対象、電話)は「長野五輪・パラリンピックを開いてよかったですか」と聞き「思う」は全体で89%だった。今回の協会調査はオリンピックとパラリンピックを分けて聞いており、パラリンピック開催は問13の通り「良かった」が全体で79%。

もう一度県内でオリンピックを開催したいか

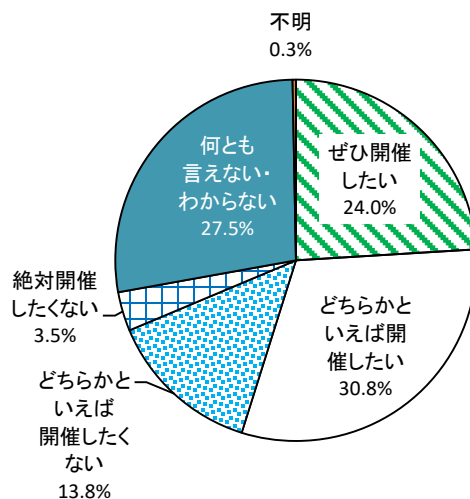
(問 9)

◆「開催したい」が55%

もう一度長野県内で冬季オリンピックを開催したいと思うか尋ねたところ「ぜひ開催したい」24.0%、「どちらかといえば開催したい」30.8%、「どちらかといえば開催したくない」13.8%、「絶対開催したくない」3.5%で、開催に意欲的な人が54.8%と、否定的な17.3%を37.5ポイント上回っている。

長野オリンピック当時生まれていなかった10代は「開催したい」が8割に上り、他の年代に比べて飛び抜けて高い。

なお4人に1人は「何とも言えない・わからない」と判断を留保している。



(注) 信濃毎日新聞社の2008年調査では、「長野県でもう一度、冬季五輪・パラリンピックを開きたいですか」と聞き「思う」は全体で57.8%「思わない」が40.2%だった。ちなみに協会が問14で聞いた質問ではもう一度パラリンピックを「開催したい」が全体で52.9%。

長野パラリンピックの開催

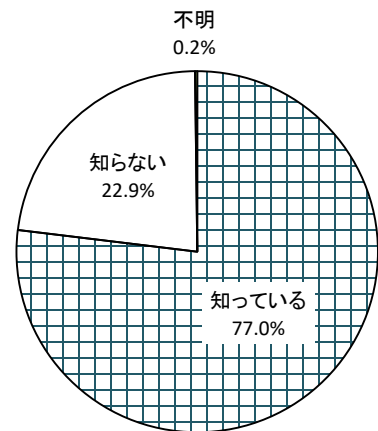
(問 10)

問 10～14 は長野パラリンピック（第 7 回冬季パラリンピック）について尋ねた。

◆「知っている」77% 「知らない」23%

長野オリンピックの翌月、長野パラリンピックが開催されたことを「知っている」が 77%で、オリンピックに比べて 20 ポイント低い。「知っている」は 10 代が 38%、20 代が 57%でオリンピック（10 代 81%、20 代 87%）との落差が大きい。

「知らない」は 23%で、若年層ほど多い。



最も印象的なシーン

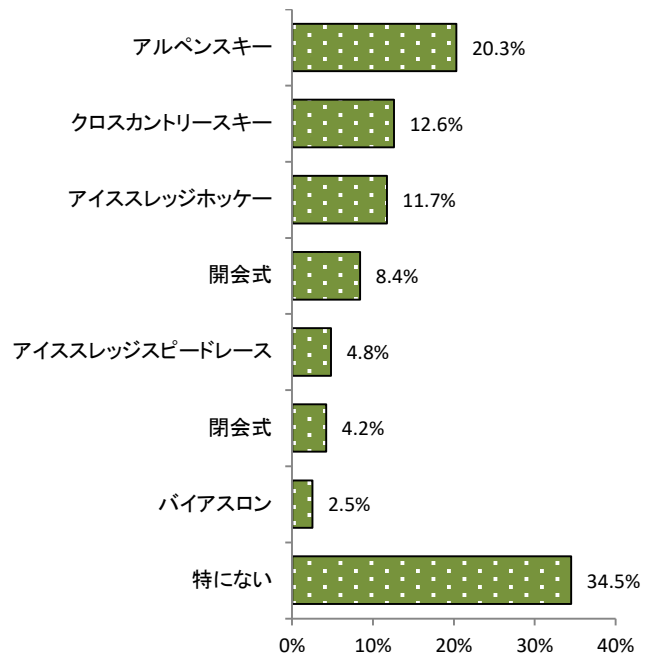
(問 11)

◆「アルペンスキー」20% 「クロスカンリースキー」13%

長野パラリンピック開催を知っていると答えた人に聞いた最も印象的なシーンは「アルペンスキー」20%、「クロスカンリースキー」13%、「アイススレッジホッケー」12%の順番だった。ただ「特にない」が 35%と多い。

長野パラリンピックで日本選手は金メダルを 12 個獲得している。

(注) アイススレッジホッケーは、現在パラアイスホッケーと名称変更している。



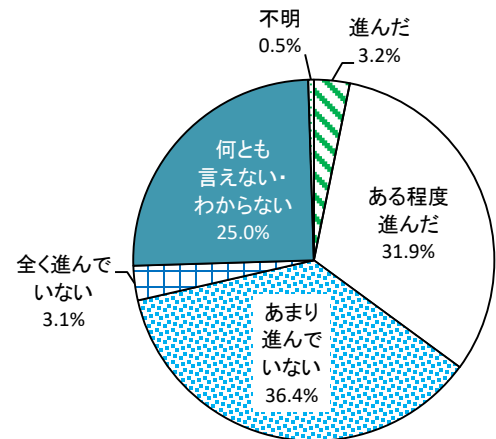
弱者にやさしい街づくり（バリアフリー）

（問 12）

◆「進んだ」「進んでいない」に割れる

長野パラリンピック開催で、すべての弱者にやさしい街づくり（バリアフリー）が進んだと思うか尋ねた。「進んだ」3.2%、「ある程度進んだ」31.9%を合わせ35.1%、「あまり進んでいない」36.4%と「全く進んでいない」3.1%を合わせ39.5%と評価は割れている。

男女や年代別でも大きな違いはない。地域別では主に競技会場となった北信で「進んでいない」が45.6%と他の3地域より高く、パラリンピック開催の機会を街づくりに十分生かしたと思われていない。



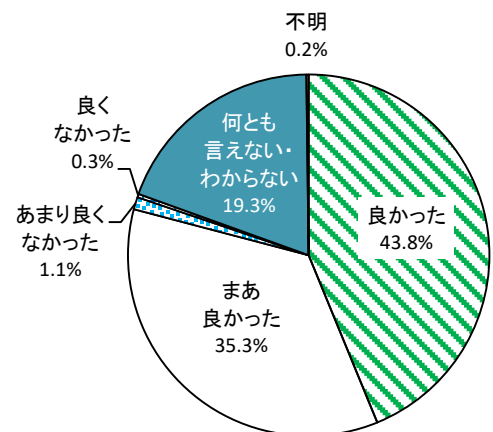
長野パラリンピックの評価

（問 13）

◆「良かった」が全体で79%

長野パラリンピックを開催して「良かった」44%、「まあ良かった」35%を合わせ79%、「良くなかった」は全体で1%とほとんどいないが、「何とも言えない・わからない」が19%と多めだった。

問8で聞いた長野オリンピックとの比較では「良かった」が9ポイント低い。開催自体を「知らない」人が23%いる結果（問10）を反映していると思われる。



もう一度県内でパラリンピックを開催したいか

（問 14）

◆「開催したい」が全体で53%

もう一度長野県内でパラリンピックを「ぜひ開催したい」19.6%、「どちらかと言えば開催したい」33.3%を合わせ52.9%と、オリンピック開催意欲とほぼ同率だ。「開催したくない」は全体で14.5%、「何とも言えない・わからない」がやや多い32.0%だった。

オリンピックと同じく、10代は「開催したい」が81.0%と意欲的な姿勢が顕著だ。

